



# AA日本ニューズレター

## No.190

### 就任の挨拶

A類常任理事 稗田里香

このたび、A類常任理事に就任いたしました稗田です。「体験談は裏切らない」というのが、私の今の確信です。体験談は、どんな人に対しても分け隔てなく回復へと導き、そして、それを支援する人々に対しても、勇気と力を与えてくれます。そのような場としてあり続けるAAの発展に微力ではありますが貢献していきたいと思っています。

1985年頃、私は一般医療機関のソーシャルワーカーとして働き始めました。日本は円高不況から急激な地価・株価高騰によりバブル期が始まっていました。一部の人々が華やき贅沢な暮らしを送る一方で、持たざる者が一層貧しい状態に陥る格差社会によってもたらされる生活課題の複雑・多様化に拍車がかかった時期でもありました。

この頃、私は、身寄りのないアルコール依存症を患う方の死の看取りを支援しました。その方がアルコール性肝硬変で亡くなった後、福祉事務所のケースワーカーとともに火葬場へ収骨に行きました。他の多くの棺が、親族らに囲まれ茶毘に付す前の最後の別れを惜しまれる中、一番端に親族など誰もいないむき出しの棺にケースワーカーとともに手を合わせることになりました。格差社会の現実を突き付けられる思いでした。また、同じ頃、病院の近くにあるドヤ街からは、屋外で暖をとるドラム缶の火で火傷を負った方が搬送されてきました。履いていたゴム長靴が足と融合するように熔け、重度の熱傷であるにもかかわらず、引火していることに気づかないほどアルコールを摂取し酩酊していました。

1990年代に入るとバブルが崩壊し、格差社会に由来する諸課題がますます深刻化し、所謂「失われた10年」と呼ばれるこの時代は、生活保護世帯数と貯蓄ゼロ世帯、「働く貧困層(ワーキングプア)」や非正規労働者、若者の失業率など増加の一途をたどっていきます。この十数年間に、私は、多くのアルコール関連問題に直面する方々やそのご家族と出会うこととなりました。中高年の男性が多かったのですが、若者や女性の存在も少しずつ増えていくことを実感していました。過剰なアルコール摂取によって身体的問題(アルコール臓器障害)を抱え、その治療を受ける方々が直面する生活の苦しみは、格差社会の中で生じる構造的な社会問題と決して無関係ではありませんでした。例えばAさんは、バブル崩壊後、全国にある傾きかけた工場を立て直すため、同僚との関係づくりにアルコールを介在させた結果、体を壊し仕事を追われることとなりました。Aさんは「まるでボロ雑巾のように会社から捨てられた」と私に吐露しました。重篤なアルコール性臓器障害のため入退院を繰り返していましたが、アルコール依存症の治療へ向けた介入が過去に一度も行われていませんでした。

また、Bさんは、アルコール依存症の治療に専念するため、生活保護を受給していましたが、保護費をもらいに行った際、窓口の職員がガムを噛み嫌々ながらの対応を受けたことに「アルコールだからそのように扱われたのだろう」と悔しさを隠しませんでした。私自身も、転院先を探す支援を行う中、アルコール依存症という診断名がつくだけで、他の医療機関から転院を断られる経験をしたことは一度だけではありませんでした。アルコール依存症に対する社会の冷たい視線を、ソーシャルワーカーとして患者さんやご家族とともに嫌というほど味わいました。

このような体験をばねにして、ソーシャルワーカーが中心となって病院内にアルコールリハビリテーションシステムをつくり、様々な診療科のスタッフと連携し実践を展開しました。在職中に、およそ600人のご本人やご家族に対するアルコール専門治療への動機づけ支援を行いました。その結果、アルコール依存症に介入することによって、生活課題の解決とアルコール性臓器障害の悪化を防ぐことができる確かな手ごたえを感じました。

同時に、実践の拠り所となったのは、自助グループで出会う回復者やその家族の存在です。アルコール依存症が疑われる方やご家族が、早期に回復者に会うことができる場として、AAのミーティングを病院内で定期的開催していただくことが実現しました。これは、今も続いていると聴き、感激しました。また、私自身も、AAミーティングや断酒会例会に通わせていただくことを通して、アルコール依存症によって苦しむ自らの体験を率直に語りながら、「今日一日」という合言葉を誠実に実践する姿を目の当たりにしました。

語りは、過酷な病いと向き合いでありながらも静謐(せいひつ)さを感じられ、その姿は哲学者のごとくであり、心から敬意を表したい気持ちに駆り立てられました。「アルコール依存症は回復できる病いである」という確かな信頼を持たせてくれました。関係者の皆様、AAメンバーの皆様、どうぞよろしく願いいたします。



## ■ 常任理事会より ■

### ゼネラルサービスの財政状況 (AA メンバーの皆様へ)

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

#### B 類常任理事 財務担当 堀

今年の2月に行われた第23回評議会にて2018年度予算が承認され約半年が経ちました。これまでメンバーの皆様からは多大なご支援をいただいておりますが、残念ながらここまでの献金をはじめとした収入は、今年度の予算を達成するに困難な状況となっております。

このままでは、来年度の評議会や重要なイベントの開催も危ぶまれ、書籍の増刷・発行の一部停止、理事会活動の縮小といった措置も考えざるを得ず、最終的にはJSOの運営にも支障が出かねない状況です。

常任理事会としても、この状況を何とか打開するため、全国各地域を回って直接メンバーの皆様と献金について分かち合う場を設けたいと考え、最初に4月15日に九州沖縄地域集会に参加し、ゼネラルサービスの財政状況について説明させていただきました。

メンバーの皆様からは、過去の収支状況や今年度予算の根拠についてのご質問や、ラウンドアップでの献金の呼びかけや献金フォーラムの実施といったご意見をいただきました。その一方で、グループの厳しい財政状況を訴えるご意見もありました。これらのご質問には真摯にお答えし、ご意見はこれからの対策に生かしていきたいと思っております。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。

今後も各地域の集会やラウンドアップ等のイベントに参加させていただき、様々な形で分かち合いをさせていただければと思っておりますので、その際は、忌憚(きたん)ないご意見をいただきたく、よろしくお願い致します。

**AAと金銭を巡る問題は**、伝統7の中でも述べられていますが、AAが誕生した時から常に付いて回っている問題のようです。日本における過去の収支を調べてみても、その傾向を見ることができませんが、時期によっては今年度に近い収入を維持、あるいは超える年度もあり、今年度予算が決して特別な数字でないことも分かります。

これらのことから常任理事会は、お預かりした献金をより有効に使用していく努力を続けていかなければならないのはもちろん、その上で、定期的な献金の呼びかけも重要と考えました。この呼びかけを怠っていたことを今現在、反省しています。

**AAメンバーの皆様**、「自分は感謝の気持ちを十分に献金に表しているだろうか」、「自分たちのグループは受けているサービスに見合うだけの献金をしているだろうか」と、もう一度、ご自身に問いかけてくださいませよう、どうか、よろしくお願い申し上げます。

## ■ 各地域より ■ (JSO 到着順に掲載)

### AA関東甲信越セントラルオフィス主催 AA書籍フォーラム

～書籍が自分の回復に欠かせないものになる～

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

#### 関東甲信越セントラルオフィス運営委員会

2018年5月4日(金)10時～15時半、ユニコムプラザさがみはら(小田急線相模大野駅近く)で「メンバーに書籍に興味を持ってもらい書籍頒布の拡充をはかる」を目的に開催しました。当日の参加者はのべ50名となり、その多くは会場近くのAAメンバーでしたが、医療の専門家や援助職の方にも参加していただきました。

企画段階から、受付で参加者確認をしない、司会席を設けない、原則出入り自由とする等、比較的自由的な雰囲気を進めるよう計画しました。配布資料としてチラシと『かわらばん』(KKCO発行)に昨年11月から連載中の「私のおすすめ書籍コーナー」をA4にまとめた資料を準備しました。合わせて当日提供された「なぜ活字が必要か(ビッグブック構想の始まり)」として『成年に達する』219～221頁も配布しました。なお、今回のチラシですが、初めてのことでありメンバー向けに作成しましたが、関係者にとってもAAを知っていただく良い機会と知ることができましたので、今後の課題にしたいと思います。

また、今回の主目的である「書籍に興味を持ってもらう」方法の一つとして、企画段階では昼食の時間を長めに取って書籍をゆっくり見ていただくよう予定しましたが、いざ蓋を開けると、スピーカーの話が終わったすぐ後に書籍コーナーへ直行して話題になった書籍があったという間に売り切れるケースもあったり、結果、300名近く集まる地域集会での書籍頒布とほぼ同等の売り上げとなりました。これは嬉しい誤算でした。

さて午前中は、6名のスピーカーが『ビッグブック』『12のステップと12の伝統』『成年に達する』『どうやって飲まないでいるか』『スポンサーシップQ&A』『今こそ充実した生き方を』『女性へのメッセージ』『BOX-916』等々、自分なりの読み方や利用法を話してくれました。

その中からいくつか紹介します。『成年に達する』はキリの良いところで3～4分割すると持ち運びに便利、『スポンサーシップQ&A』に自分の連絡先を書いて新しい仲間に渡すとスポンサーシップの手助けとなる、書籍への書き込みに日付を入れておくと自身の気付きの軌跡が辿れる、等々。他にも”目からウロコ”の利用法が紹介されました。このような話を聞けば自分で試したくなって書籍コーナーへ直行されるのも納得です。

午後になって、3～4グループに分かれてミーティングと書籍に関するQ&Aを行いました。ミーティングでは、初めて手にした本、今よく使っている本、メンバーに読んで欲しい本、等を約1時間で分かち合いました。

そして終了間際に、1年未満に限ったソーバークウントダウンを行いました。1dayの仲間が参加してくださっていたことも大変に嬉しい誤算でした。

最後に、運営委員の主な感想を紹介します。書籍を前面に出したのがよかった。沢山の書籍を並べたことも惹きつける魅力になった。ぜひ継続して開催したい。遠くのメンバーもKKCOを知ってオフィス委員登録への良い機会。経験の分かち合いとはまた違う良さ。書籍を通した仲間との分かち合いが大事。会場の参加者全員が『ビッグブック』を持っていて驚いた。売る側の責任として本の有用さを知ってもらう努力と工夫が必要。ミーティングで輪読しても難しく感じるが、分かち合ったり自分で工夫すれば書籍が自分の回復に欠かせないものになる。

当日、ご参加くださった皆さま、お手伝いをしてくださった皆さま、ありがとうございました。

## 第20回AA滋賀・OSMが盛会裡に終了

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

### 関西地域 AA滋賀 オネスティ唐崎G とら

2018年5月12日に「AA滋賀・第20回オープンスピーカーズミーティング」が、滋賀県大津市の「ユースホステル西教寺」で開催され、参加者50名、宿泊者28名、盛会のうちに閉会しました。20回を機に、歩みを振り返ってみます。

#### 京都滋賀合同からの自立

滋賀県は、AAメンバーもグループ数も多くありません。京都滋賀合同のグループから、滋賀のグループが自立したのは1994年で、AA滋賀地区として自立したのは1996年でした。滋賀に複数のグループが発足したのは1997年で、これを記念して合同でOSM実行委員会を結成し、1998年(平成10年)5月に第1回滋賀地区OSMを開催しました。第1回だからでしょう、参加者100名、宿泊40名と、九州や関東東北など他府県からのメンバーが参加してくださり熱烈な支援をいただきました。この全国からの激励が、その後20年、毎年開催の支えとなりました。

#### 5月は宿泊付き滋賀のOSM

第1回から、OSM後に宿泊して、バースデーMとナイトM、24時間ルームで分かち合い、翌日は琵琶湖遊覧などの観光を楽しんできました。宿泊できるOSMはめずらしいこともあって、「5月の滋賀のOSMが楽しみ」との声が寄せられ、毎年秋には翌年のOSM実行委員会を発足させ、毎月実行委員会を開いて準備しました。また、テーマを記したタオルやマグカップ、キーホルダーや葉などの参加記念品が、年々好評となったのもうれしいことでした。

#### 医療等関係者の協力

毎回、医療関係者にスピーチしていただき、OSM終了後その場で、1時間余「医療等関係者を囲む懇談会」を開き、先生方の日ごろの所感やAAへの期待要望などを率直に語ってもらって交流しています。この懇談会記録を、年に2回発行している「ニューズレター滋賀」(A4・28頁、第38号迄発行済)に掲載することもあります。

#### OSMの広報活動

OSMの案内チラシを印刷して、各地のミーティング等でお知らせし、「AA滋賀・ホームページ」にも案内を掲載し、毎月発行のスケジュールカレンダー「葦笛」(現在176号)でも内容を紹介して、広報しています。『BOX-916』や「関西セントラルオフィス・ホームページ」での告知を見て参加したという人も少なくありません。AAメンバーは情報をよく知れば積極的に協力してくれます。

#### 20年20回に思うこと

この20年、20回のOSMを振り返れば、うれしい出会いの場だったと、さまざまな光景がよみがえってきます。湖畔の宿の人たちも含めて、多くのメンバーの支えに感謝と希望を覚えます。第1回から欠かさずに参加したメンバーは当初50歳でしたが今年70歳になりました。また、いまは亡き人たちの笑顔が思い出され、深甚の感謝とともに涙が出てきます。今年、座禅付きの第20回OSMのテーマは「飲まないで生きる—比叡山のふもとで心の落ち着きを」でした。

## 第1回AA沖縄・鹿児島・山口ヤング合同 OSM を終えて

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

### 山口ヤング/宇部G ミンミン

去る4月29、30日に、第1回AA沖縄・鹿児島・山口ヤング合同オープンスピーカーズミーティング(以下、OSM)を、山口県宇部市で開催いたしました。

きっかけは、昨年1月に山口ヤングでイベントを開催した際、沖縄や鹿児島から参加してくれたヤングメンバーたちと、継続的に行っているイベントが何かできないか、との分かち合いからでした。

初回の開催地を山口に決めて山口ヤングのメンバーとそのOBを中心に実行委員会を立ち上げ、昨年末から約半年にわたって準備を進めました。案内状を持って県内の保健所や病院を回ったり、2月には広報も兼ねて京都のイベントに出かけたり。移動は大変だったはずですが、疲れは全く感じませんでした。

そして迎えた初日29日は、翌日のOSMに先立って沖縄、鹿児島、山口のヤングメンバーはもちろん、東京、大阪、福岡、長崎のメンバー約20名が、目の前に湖が広がるレジャー施設に集まりました。好天に恵まれ、季節のツツジの花もちょうど満開と最高のロケーションの中でのミーティング。夕方には温泉に移動し、風呂と食事を楽しみ、また帰ってきてからミーティング。深夜までみんなで分かち合いの大切な時間を過ごしました。

翌30日は、市街地に場所を移してOSMです。当日参加も含めたメンバー、家族、関係者の総数は約80名。会場の収容人数がギリギリでヒヤヒヤしましたが、全員に座っていただくことができました。そしてOBも含めた9人のメンバーにスピーカーをしていただき、大盛況のうちにイベントを終えることができました。

今回、初めて実行委員長という立場でイベントに携わることができ、とても貴重な経験をさせていただくことができました。当日に想定外のことが起こってアタフタしないか心配でしたが、大きなトラブルもなく、仲間のみなさんに助けていただいたおかげで、とても良いイベントになったと思います。

そして改めて感じたのは、メンバーの「熱さ」です。山口でこんなイベントをやるよ、と声を掛けたら、じゃあ行くよ、と遠いところからたくさんの仲間が来てくれます。そして惜しげもなく自分の経験を分かち合ってくれます。

ヤングの良いところは、同じ世代同士での気軽さ、共通の感覚があるというのはもちろんですが、若いころからお酒が止まっているOBの方々から直接経験を手渡してもらえる、ということもあると僕は思っています。これらはヤングの特権です。僕を含めた、繋がり始めの若いメンバーが、たくさんの愛と共感と安らぎを得られる機会がどんどん増えていくことを願います。

第2回、来年は鹿児島です。今回の経験をふまえて、さらに良いイベントになれば、と思っています。すでに来年が楽しみです。



## AZYPAA から沖縄、鹿児島ヤングへ

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

### 沖縄ヤング/安里 G タカ

沖縄でヤングミーティングがスタートしたのは2013年のことでした。その大きなきっかけは、前年に東京で城南ヤングとインターグループのメンバーが合同で開催したアジアヤングのコンベンション AZYPAA (Asia Convention of Young People In Alcoholics Anonymous) に参加したことから始まりました。世界各地から第1回となるアジアの YPAA コンベンションをサポートするために参加してくれた勢いのあるメンバーに圧倒され、AAに対する捉え方が自分の中で大きく変化しました。彼らは若く、酒を飲まなくても自由に生きているように見えて、そしてAAへの熱意が凄い！と、とても感動しました。

AZYPAA 全日程を終えて空港に向かう電車の中、山口ヤングを始めた仲間と一緒に、沖縄でもヤングミーティングを始めたいと話しました。その短い時間の中で、また、これをきっかけにしてその後も、この仲間と定期的に連絡を取り様々なアドバイスをいただけてきました。

**2015年には**、沖縄でも第4回となるAZYPAAを開催することができました。米軍基地内のメンバーとの交流や、地元のヤングメンバーの増加にもつながった機会となりました。そしてその数年後には鹿児島ヤングがスタートしました。

今回のOSMは、合同開催ということで名前を入れていただいているものの、実際の準備はほとんど山口のメンバーにさせていただきました。当日の司会をさせてもらえたので、自分もその一部に含めさせてもらえた気持ちになり、とてもありがたかったです。今後ともこのつながりの一部としてヤングのコミュニティーが広がっていくために頑張っていきたいと思います。

最後に YPAA (Young People in AA) について説明させていただきます。アメリカ/カナダの YPAA は各地域地区ごとにコミュニティーとして存在しています。年齢制限はありません。また、世界的なコンベンション ICYPAA (The International Conference of Young People in Alcoholics Anonymous) は、毎年北米で開催され、今年で60回を数えます。なお、AZYPAA 等、各地域の YPAA コンベンションは、この ICYPAA ミーティングフォーマットを使用しています。

### 2018年の予定

The 60th ICYPAA:8/30~9/2、アメリカボルチモア。The 2nd TOKYPAA:11/24、国立オリンピック記念青少年総合センター。いずれも活気に満ちたイベントになると思います。もしお時間がありましたら、是非お出掛けください。

## 第6回 オープンステップミーティングを終えて

～早期発見、早期治療？～

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

### 富士のバラ G ひろし

富士のバラグループでは5月26日(土)に第6回オープンステップミーティング(以下、OSM)を行ないました。当日は、43名の参加者があり、そのうち家族が1名いらっしゃいました。ゲストスピーカーとして聖明病院のケースワーカーにお話をいただきました。ミーティング形式の為、みんなの顔が見えて良かったと言ってくれた仲間もいました。

**開催に先立ち**、4月中旬と5月初旬にOSMのチラシを持って病院等関連施設を巡る予定をしていました。4月中旬は6月に行われる関東甲信越地域ラウンドアップ(以下、Rup)の実行委員会と共に巡り、今年のAA日本全体のテーマ『あなたは AA をご存知ですか？地域を超えて助け合おう、広報』を体験させていただきましたが、実はこの時点で Rup の土日泊が定員の250名に達したとのこと。もう仲間が集まったのか！と、大変に驚き、規模の違いを実感させられました。

**5月初旬になって**、思いもよらなかったニュースが連日放送される中、ローカルラジオにもお願いをしてOSMの案内等をさせていただきました。AAを回復の資源として使って頂きたい、自分たちの経験が誰かの役に立てば・・・という思いから、『お酒で苦しんでいる方がいるならば、AAを』『一緒に酒のない生き方を歩みませんか？』と、こんな言葉でチラシを説明しました。しかし、私たちがよく言葉にする「否認の病気」や「底付きが必要」等々、ラジオを聴いていらっしゃる多くのノンアルコール(普通の飲酒者)には理解し難いことだろうと、歯がゆい思いをしたことも覚えています。

**もつと視点を変え**、早期発見、早期治療？につながる広報活動が必要かもしれません。以前、『AAにご用は？～12の質問～』を読んでいただいた役所の職員さんに「これなら秋に行うイベント(健康まつり)に使える。大きく表示して来場者に聞いてごらん？」とアドバイスをいただきました。来場者に『楽しくお酒を飲んでいますか？』そんな聞き方もあるかもしれません。

\*-+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*--+-\*

AAメンバーの皆様

参考にされたい記事がありましたらJISOまでご連絡ください。地域を越えて皆様の経験を分かち合っていただければと思います。

JISO新井

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休